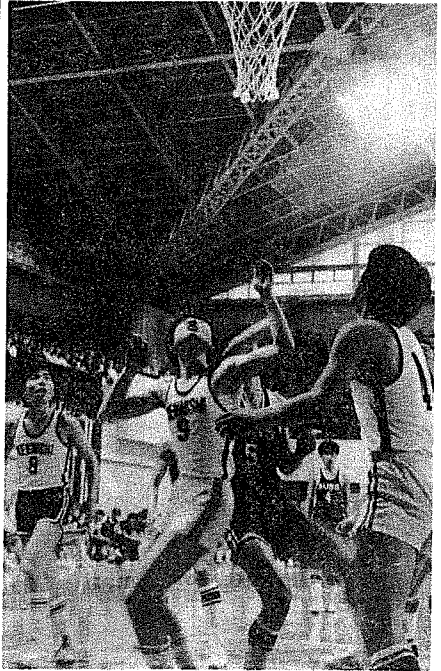




発行所 県立芦屋高等学校
出版部 兵庫県芦屋市宮川町6の3

本校指定店
合資 芦屋写真室 カメラ部
国鉄芦屋駅北出口前
電話芦屋四七三六番

第14回定期戦



硬式野球部

五月廿日、前年度のよもからの新メンバーが揃って、今年また、県内の定期戦がはじまった。運動部選手としては、この定期戦が最も重要な戦いである。今年も、硬式野球部は、前年度に引き続き、県内各チームと対戦することになった。今年も、硬式野球部は、前年度に引き続き、県内各チームと対戦することになった。今年も、硬式野球部は、前年度に引き続き、県内各チームと対戦することになった。

軟式野球部

定期戦開始、三戦して、左投手が活躍、右投手も安定した投球を披露した。試合の結果、我々のチームは、三戦して、左投手が活躍、右投手も安定した投球を披露した。試合の結果、我々のチームは、三戦して、左投手が活躍、右投手も安定した投球を披露した。

硬式庭球部

今年も、硬式庭球部は、県内各チームと対戦することになった。今年も、硬式庭球部は、県内各チームと対戦することになった。今年も、硬式庭球部は、県内各チームと対戦することになった。

軟式庭球部

定期戦開始、二戦して、左投手が活躍、右投手も安定した投球を披露した。試合の結果、我々のチームは、二戦して、左投手が活躍、右投手も安定した投球を披露した。

水泳部

四月初めの定期戦に向けて、練習がはかばかである。水泳部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。四月初めの定期戦に向けて、練習がはかばかである。

バレーボール部

結果は、男子が勝つ。女子も、練習がはかばかである。バレーボール部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。結果は、男子が勝つ。

体操部

練習がはかばかである。体操部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。練習がはかばかである。

剣道部

女子、男子、練習がはかばかである。剣道部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。女子、男子、練習がはかばかである。

陸上競技部

定期戦開始、練習がはかばかである。陸上競技部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。定期戦開始、練習がはかばかである。

卓球部

練習がはかばかである。卓球部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。練習がはかばかである。

柔道部

練習がはかばかである。柔道部は、今年も、県内各チームと対戦することになった。練習がはかばかである。

その他

練習がはかばかである。その他、今年も、県内各チームと対戦することになった。練習がはかばかである。

専表独語

我が国は、戦後、経済が急激に発展した。専表独語、我が国は、戦後、経済が急激に発展した。専表独語、我が国は、戦後、経済が急激に発展した。



専表独語、我が国は、戦後、経済が急激に発展した。専表独語、我が国は、戦後、経済が急激に発展した。専表独語、我が国は、戦後、経済が急激に発展した。

寄稿

我々の明日

国際環境週間によせて

L.H.S.人類科学研究会

危機?

去年の12月15日、ワシントンで開かれた地球環境会議が、我々の明日を憂う人々の心を打撃した。その会議で発表された報告書は、人類の生存に深刻な脅威を及ぼしていることを警告している。その中でも、人口増加と資源枯渇の問題が最も懸念されている。人口は1980年から2050年にかけて、約100億人に増加すると予測されている。これは、地球の資源を維持不可能なレベルまで消費することを意味する。また、森林破壊、水質汚染、大気汚染などの環境問題は、人類の健康と生存に直接的な脅威を及ぼしている。これらの問題を解決するためには、国際的な協力と持続可能な開発の取り組みが必要である。

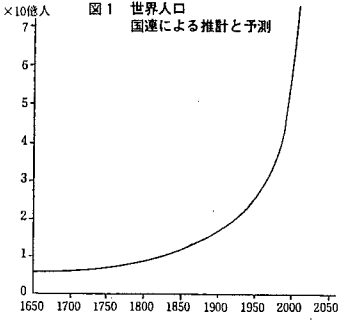


図1 世界人口 国連による推計と予測

10億人

7
6
5
4
3
2
1
0

1650 1700 1750 1800 1850 1900 1950 2000 2050

食糧生産の可能性

半ば以上の食糧生産は、現在よりも少ない食糧生産で賄われることになる。これは、人口増加と食糧需要の増加によるものである。食糧生産を増やすためには、農地の拡大と生産性の向上が必要である。しかし、農地の拡大は森林破壊や環境汚染を招き、生産性の向上は化学肥料や農薬の使用を増やして環境を汚染する可能性がある。持続可能な食糧生産を実現するためには、農業の改革と環境保護の両方が求められる。

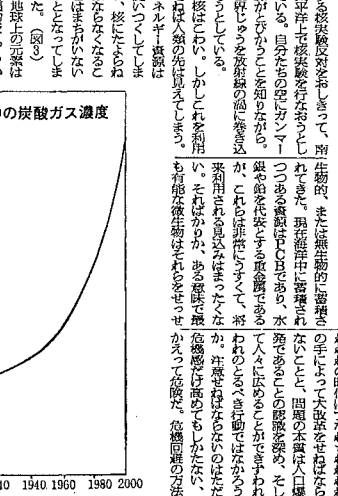


図2 可耕地面積

5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0

1650 1700 1750 1800 1850 1900 1950 2000 2050 2100

総可耕地面積

必要食糧用地

生産性2倍

生産性4倍

現在

農業に利用可能な可耕地面積

食糧生産の増産は、農地の拡大と生産性の向上によって行われる。しかし、農地の拡大は森林破壊や環境汚染を招き、生産性の向上は化学肥料や農薬の使用を増やして環境を汚染する可能性がある。持続可能な食糧生産を実現するためには、農業の改革と環境保護の両方が求められる。

必要食糧用地の確保は、食糧生産の増産によって行われる。しかし、農地の拡大は森林破壊や環境汚染を招き、生産性の向上は化学肥料や農薬の使用を増やして環境を汚染する可能性がある。持続可能な食糧生産を実現するためには、農業の改革と環境保護の両方が求められる。

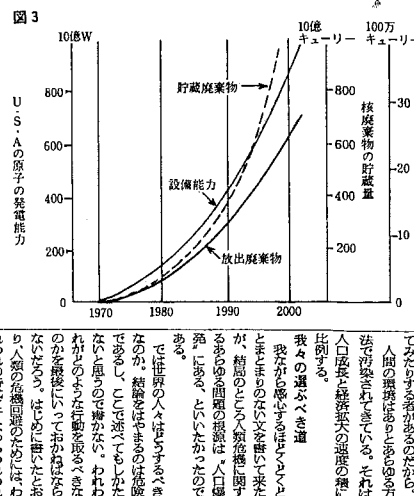


図3 U.S.A.の原子力発電能力

100000 kWh

80000 kWh

60000 kWh

40000 kWh

20000 kWh

0

1970 1980 1990 2000

貯蔵廃棄物

放出廃棄物

設備能力

核廃棄物の年平均放出量

核廃棄物の貯蔵量

核廃棄物の放出量

核廃棄物の放出量は、原子力発電の普及に伴って増加している。核廃棄物の貯蔵は、環境汚染のリスクを高める可能性がある。核廃棄物の処理と管理は、原子力発電の持続可能な利用にとって重要な課題である。



図4 大気中の炭酸ガス濃度

350

340

330

320

310

300

290

1860 1880 1920 1940 1960 1980 2000

現在

予測

大気中のCO2濃度は、産業革命以降に急激に増加している。これは、化石燃料の燃焼によるCO2の放出が増加したためである。CO2濃度の増加は、地球温暖化を引き起こし、気候変動をもたらしている。気候変動は、海面上昇、極端な気象の増加、生態系の破壊などを引き起こす可能性がある。CO2濃度を削減するためには、再生可能エネルギーの利用と省エネルギーの取り組みが必要である。

必要食糧用地の確保は、食糧生産の増産によって行われる。しかし、農地の拡大は森林破壊や環境汚染を招き、生産性の向上は化学肥料や農薬の使用を増やして環境を汚染する可能性がある。持続可能な食糧生産を実現するためには、農業の改革と環境保護の両方が求められる。

核廃棄物の放出量は、原子力発電の普及に伴って増加している。核廃棄物の貯蔵は、環境汚染のリスクを高める可能性がある。核廃棄物の処理と管理は、原子力発電の持続可能な利用にとって重要な課題である。

核廃棄物の放出量は、原子力発電の普及に伴って増加している。核廃棄物の貯蔵は、環境汚染のリスクを高める可能性がある。核廃棄物の処理と管理は、原子力発電の持続可能な利用にとって重要な課題である。

速報

第26代執行委員会成立

会 員	得 票 数				
	総	信	不	無	
会 長	小松 常温	1,162	788	301	73
副 会 長	福田 雅信	1,068	610	320	108
	榊 真輔		655	275	
執 行 委 員	野田 正文		621	287	
	佐藤 晋亮	1,013	584	324	105
	長野 やつひさ		641	267	
書 記 長	久我 和子	1,163	726	322	115

本会が、自衛隊の廃止を主張する「無」の会派が、第26代執行委員会を組織した。執行委員会は、野田正文、佐藤晋亮、長野やつひさ、久我和子、小松常温、福田雅信、榊真輔、小松常温の7名で構成される。執行委員会は、本会の活動を推進し、自衛隊の廃止を主張する。執行委員会の成立は、本会の活動に大きな前進をもたらす。執行委員会は、本会の活動を推進し、自衛隊の廃止を主張する。執行委員会の成立は、本会の活動に大きな前進をもたらす。

年	投 票 率										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	全体
1年	76%	98%	80%	89%	100%	82%	87%	91%	82%	82%	87%
2年	96%	91%	93%	93%	96%	87%	98%	80%	98%	98%	93%
3年	87%	89%	87%	83%	80%	89%	64%	73%	70%	50%	78%

投票率は、1年目は87%、2年目は93%、3年目は83%であった。投票率は、1年目は87%、2年目は93%、3年目は83%であった。投票率は、1年目は87%、2年目は93%、3年目は83%であった。投票率は、1年目は87%、2年目は93%、3年目は83%であった。

